

平成29年度 行政評価事業別シート

実計対象		☐	評価対象	☒	新規	☐	完了事業	☐	ゼロ予算事業	☐	担当者	渡辺 勉
全体計画						経費区分	—			内線	3416	
事務事業名		4169 林業振興対策事業										
所 属		150100 産業振興部・農林課										
施 策		05012200 森林の多面的機能の維持保全と共生										
会計		01 一般会計										
科目		060301 農林水産業費・林業費・林業振興費										
事業		010000 林業振興対策事業										
事業目的						事業概要・効果						
森林のもつ多面的機能を強化するため、森林の整備・作業道等の開設を行い、間伐材の搬出を促進する。また、森林づくり推進支援金を活用して、間伐材製品の設置により森林整備の必要性の啓発を行う。						林業振興に対し、森林のもつ機能の維持と保全と共生が図られる。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
丸太柵工＝3段 24m ベンチ大 6台 ベンチ折込 8台 松くい虫伐倒駆除 85本 60.47m ³	丸太柵工＝3段 40m ベンチ大 6台 ベンチ折込 3台 松くい虫伐倒駆除 40本 30m ³
平成29年度 予定	平成30年度 予定
丸太作工 3段 30m 間伐材ベンチ ベンチ大2台 ベンチ折込 2台 松くい虫被害木伐倒駆除（準公共施設）65本 60m ³	
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指 標 名	無し					
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度 目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		1,421	2,961
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	364	619
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		1,057	2,342
人 員 数 (人)	正規職員	0.1	0.1
	嘱託職員	0.3	0.3
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	721.9	721.9
	嘱託職員	826.5	826.5
	臨時職員	0.0	0.0
	計	1,548.4	1,548.4
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		2,969.4	4,509.4

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	320	消耗品（間伐材ベンチ）
13節 委託費	778	坂田山共生の森施設管理委託料、草刈等委託
15節 工事請負費	204	遊歩道丸太柵工
19節 負担金補助及び交付金	66	県治山林道協会負担金ほか
その他	53	手数料 保険料 自動車重量税

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	463	消耗品ほか
13節 委託費	1,150	坂田山共生の森施設管理委託料、草刈等委託
15節 工事請負費	412	遊歩道パネル柵整備工事
19節 負担金補助及び交付金	668	県治山林道協会負担金ほか
その他	268	役務費229, 自動車重量税38, 土地借上料1

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	普通
評価コメント	県の森林づくり支援金による間伐材を活用した木材製品と里山の遊歩道整備、準高校施設の松くい虫被害木伐倒駆除を実施することで、森林が持つ機能の維持と保全を図ることができた。	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評価コメント	坂田山共生の森を整備することにより地域に親しまれる身近な里山として、市民をはじめ須坂を訪れる市外の方や外国人が集う場所となって来た。	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	やや向上
評価コメント	遊歩道の整備や草刈りなどの維持管理について、「坂田山共生の森を愛する会」の自主運営の努力により経費削減につながった。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

間伐材を活用した丸太ベンチなどの木材製品の温もりを感じることができた。
 坂田山共生の森を愛する会の維持管理により、市民をはじめ、市外の方や須坂を訪れている外国人の方々にも親しまれる身近な里山になっている。

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
坂田山共生の森を愛する会により、市民に親しまれる里山が形成されている。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
森林づくり推進支援金を活用し、みんなの暮らしを守る森林づくりなどの啓発を行うとともに、里山の整備を行う。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	